



平成 19 年 3 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社 G S I クレオス
代表者名 代表取締役社長 大工原 泉
(コード番号 8101 東証・大証 第 1 部)
問合せ先 執行役員経営企画部長 松下 康彦
(TEL. 03 - 5211 - 1802)

経営改革に関するお知らせ

当社は、平成 19 年 3 月 30 日開催の取締役会において、下記のとおり経営改革に関する基本方針を決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 経営改革に至る経緯およびその目的

当社は、繊維関連事業の収益改善を重点施策に掲げ、原料・素材の川上分野とアパレル・製品の川下分野が各々保有する機能の連携と情報の共有体制の整備を進めることで顧客に対する総合的な提案力の強化を目指してきました。しかしながら、婦人アパレル事業においては、商品企画体制の整備や販路・取引条件の見直しなどの効果が現れるまでに予想以上の時間を要しており、天候不順による店頭不振の影響と相まって、当期業績が大幅に下振れ、2 期連続の損失を計上する結果となりました。

このままでは、当社最大の経営課題である、早期復配に向けた配当可能利益の確保が懸念される状況となったため、来期以降、確実に収益を確保することを可能にする事業体質とコスト構造の実現を目的に人員削減を含む改革策を断行することといたしました。

2. 経営改革の内容

(1) 婦人アパレル事業の改革・非効率事業の根絶

- ① 再建が急務である婦人アパレル事業については、消費者起点の商品企画体制を再構築する方針のもと、ブランドの絞込みや販路・取引条件の見直し等の改善計画を前倒しで進め、事業規模を大幅に縮小して黒字化を図る。
- ② これにより繊維分野は、レッグ、インナーおよびアウターの各事業領域において、最適素材の調達と提案機能を基軸とした素材関連取引を中国を含めたグローバルベースで拡大するとともに、消費者起点の企画機能と素材調達・生産機能をパッケージで提案する体制を整え、製品関連事業の収益拡大を目指す。
- ③ 非繊維分野においては、非効率事業からの完全撤退と成長事業への経営資源の集中方針のもと、プラスチック、機能性機材、アメニティおよびライフサイエンスの各分野において独自機能の強化を推進する。特にプラスチック関連事業においては、中国の有力投資先との連携を強化することにより、樹脂およびフィルム関連事業の拡大をベースに積極的な用途開発を推進する。
- ④ 戦略事業であるナノテクノロジーは、事業化のスピードを上げるための新たな戦略を策定する。

(2) 人件費の削減

- ① 役員報酬および管理職給与の削減
- ② 希望退職の募集

募集人数	80 名
募集期間	平成 19 年 5 月 7 日から平成 19 年 5 月 14 日まで
退職日	平成 19 年 6 月 20 日
優遇措置	特別加算金を支給するとともに、希望者には再就職の支援を行う。

(3) 販売費ほか経費の削減

(4) 組織再編

- ① 経営合理化の体制下、経営資源の機動的な再配分を行うため、本部制を改め、フラットな組織とする。
- ② 営業部門は成長事業を集中的に拡大するため、間接部門は内部統制機能を維持しつつ効率性を追求するため再編する。

3. 今後の見通し

(1) 今期業績に与える影響

事業構造改善損失 5 億円、希望退職特別加算金等 5 億円の合計 10 億円を今期の特別損失に計上する予定です。本日、これら特別損失の計上を踏まえ、「業績予想の修正および特別損益の発生のお知らせ」を公表しております。

(2) 来期以降の業績に与える影響

人件費の削減により年間 9 億円、販売費ほか経費の削減で年間 7 億円、合計年間 16 億円の経費削減効果を見込んでおりますが、平成 19 年度につきましては、期中実施の項目もあり、その削減効果は 13 億円となる見込みです。

なお、平成 19 年度の業績予想につきましては、改めて発表する予定です。

以 上